

半世紀の絆を復興の力に



西和賀の秋の味覚は大好評でした (昨年 10 月)

陸前高田市支援 28日に

今年の陸前高田市への支援活動に賛同する町外支援活動は10月28日実施に決まりました。昨年は7月と10月に行っており、今回は3回目・1年ぶりの訪問支援となります。西和賀産の食材を使った炊き出しは、昨年大好評でした。今年も町民の心をこめた西和賀の秋の味覚をお届けします。また、深澤晟雄の会の

支援活動に賛同する町外のボランティアは昨年同様、気仙沼市消防署有志による「サンマの塩焼き」、盛岡市の寿司店経営・中井隆二さん夫妻の「お寿司」が炊き出しに花(味)を添えてくれます。

舞台部門では、二戸市の高村人司さんが野外ステージ用の音響機器を運搬提供し、設置・操作まで担当してくれます。

今回の舞台は西和賀だけでなく、地元市民とも交流することで復興へ向けた「絆の交流舞台」にしようと考えています。また、社会人講師・山中紅香さんが講演「いのちの山河」を演じてくれることも決まり、復興へ大きな希望をつなぐ舞台になりそうです。

深澤精神つなぐ半世紀

昭和35年のチリ地震津波で深澤村長の「村一丸となって被災者の苦しみを和らげよう」の呼びかけに沢内農民が結束、高田市方面に11万把の救援苗を送りました。深澤村長が亡くなった昭和40年、豪雪で田植之のできない沢内農民を救ったのは陸前高田市の救援苗でした。そのお返しに昨年続く本会の陸前高田市支援です。生命尊重の深澤精神が「人間愛の絆」となって半世紀。その絆の輪は県内外に広がりをみせています。さらに後世に受け継がれて行くことが深澤晟雄の会の願いです。

ボランティアと食材募集

深澤晟雄の会では、今回の活動を支援してくれる町民ボランティアと炊き出し食材を募集します。

炊き出しに必要とする食材は、白米、ニンジン、大根、ネギ、ゴボウ、うめぼしです。食材は担当者が提供できる方は深澤晟雄提供者宅に伺いますので、資料館にご連絡下さい。

ボランティア希望者、食材提供者ともに10月24日まで深澤晟雄資料館(電話85-3838)へご連絡下さい。

「書かざるの記」と

深澤村長の記憶

聞き手／深澤晟雄の会 佐々木 孝道 副理事長



＜村田源一郎氏の著書＞

村田氏の著書に「育て赤ちゃん～死亡率ゼロをめざして～」がある。昭和40年元日から実に101回にわたり岩手日報に連載された企画記事の集大成である。

当時、岩手日報中堅記者として活躍した氏は取材・構成・問題点の分析まですべて一人でこの長編記録を仕上げたといわれる。日本のチベット・岩手の辺地性打破への勇敢な提言ともなった。



深澤村長の遺体を乗せた車は、村民の悲しみ・慟哭を呑み込んだ猛吹雪に迎えられた。(映画「いのちの山河」より)

深澤さんは国会へ 送るべき人でした

佐々木 加藤邦夫さんの話では、武見会長は深澤村長が亡くなったとき、深澤晟雄さんは総理大臣にしても遜色ないと言ったそうです。

村田 深澤さんのような方は、むしろ国会に送るべき人でしたな。北上・和賀郡は革新勢力が強いですよ。極端に言えばコミニニスト(共產主義者等革新系)がかなり。そういう意味では社会党に入らないといけなかったのかな。澤藤節郎という人は政治家ではないんだけど、も当選しているんですね。ほかの市町村に比べると和賀郡には理論思想的の深い人々の多いところでした。

佐々木 深澤村長は福島医大で亡くなりますが、その頃の思い出などはありますか。

村田 僕は深澤さんが入院していた福島の病院を訪ねたことがあります。あまりおっしゃられなかったように思います。私も医者にあまり話をしないようにと言われて、たぶん10分ぐらいお見舞いしてきた程度でした。

深澤さんの遺体が帰ってくる

きの様子を、たしか「育て赤ちゃん」に書いた記憶があります。あれはもう、絶版になりました。

佐々木 村田さんの著書のほかにも、深澤村長の生命尊重理念や功績に触れた文献資料が数多く残されています。私たち「深澤晟雄の会」も、深澤晟雄資料館を中心にして「生命尊重の深澤精神」を後世に引き継いで行きたいと思っています。

村田 こうして、きちんと伝えてくれる人がいるということは、深澤さんは幸せだ。深澤さんのように地域医療に携わった村長も随分その当時は多くて、葛巻の遠藤さんもその一人なのだが、今は忘れ去られている。村民の浄財を集めて建立された深澤晟雄の胸像と共に、深澤村長は人々の心の中に生き続けて行くんですね。

佐々木 最後に村田さんのご趣味は乱読と伺っていますが、今まで読まれた本で一冊を強いてあげるとすればどのような本ですか。

村田 強いてあげれば司馬遼太郎の「坂の上の雲」だな。

佐々木 長時間にわたって貴重なお話ありがとうございます。

(おわり)